

A Labour History of Japan's Imperial Colonies

松村高夫 著 『日本帝国主義下の植民地労働史』

日本帝国主義と植民地労働史に関する 六編の論文（一九六六年～二〇〇六年発表）を集成！

松村高夫

Takao
MATSUMURA

日本帝国主義下の

植民地労働史

今後日本が東アジアのなかで、特に韓国や中国とどのような関係を結んでいくべきなのか。そのことを考えるために日本と東アジア諸国との過去の関係をどう捉えるべきなのか。



不二出版

解説……………杉原達（大阪大学大学院文学研究科教授）

体裁……………A5判・上製・三八四頁

刊行……………二〇〇七年五月

定価……………本体価格五、八〇〇円十税

私たちの前には、

今では入手しにくい論文も含めて、

日本帝国主義と植民地労働史に関する

松村高夫の仕事が

改めて提示されるに至った。

若い歴史研究者が、

長いあいだ真摯に続けられてきた

この学問的営為に対して

それぞれの問題意識をもって向き合い、

そこから多くを学ぶことを願ってやまない。

〔本書所収の杉原達「解説」より抜粋〕

不二出版

本書「あとがき」より

昨年の春学期に慶應大学経済学部の三田キャンパスで「東アジア・スタンダードの創造」のテーマのもとに「現代社会史」の講義を開講した「中略」。今後日本が東アジアのなかで、特に韓国や中国とどのような関係を結んでいくべきなのか、そのことを考えるために日本と東アジア諸国との過去の関係をどう捉えるべきなのか、現在東アジアはどのように動いているのか、今日本が問われていることは何か、といった問題を学生と一緒に考えようという企画であった。中国からは歩平先生、韓国からは池明観先生を一カ月ずつお招きし、学内外から一六名の第一線の論客を招聘して毎週二コマずつの講義と対論を行なった。この講義をコーディネートするなかでも、戦前の朝鮮と「満州」の労働史に関する私の旧稿を本としてまとめるという案が固まっていた。「中略」

近年、朝鮮人・中国人の強制連行、強制労働を否定し、強制ではなく自由意志だと主張する動きがあり、そうした類の本もいくつが出ています。また、「満州ブーム」のなかで、日本による中国（「満州」）への侵略、それは中国人を虐殺していった歴史であることは現地に行けば痛いほどわかるのであるが、その侵略という大前提を忘却した議論がかなりなされてもいる。「植民地近代化論」、「植民地経営の合理性論」、「植民地遺産継承論」等々が、満鉄創立一〇〇周年を記念する一連の出版物のなかにもかなり見られる。であるならば、私の旧稿を刊行することも無意味ではないかもしれない、と思ったのである。

著者紹介

松村高夫 (まつむら・たかお)

1942年 横浜市生まれ

1964年 慶應義塾大学経済学部卒業

1969年 慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了

1976年 Ph. D. in Social History, University of Warwick, U.K.

2007年3月まで 慶應義塾大学経済学部教授

現在 慶應義塾大学名誉教授

主 著

The Labour Aristocracy Revisited: The Victorian Flint Glass Makers 1850-80, Manchester University Press, 1983.

『イギリスの鉄道争議と裁判——タフ・ヴェイル判決の労働史』ミネルヴァ書房、2005年

『〈論争〉731部隊』（編著）晩聲社、1994年、増補版1997年

『戦争と疫病——七三一部隊のもたらしたもの』（共著）本の友社、1997年

『七三一部隊がやってきた村——平房の社会史』（関成和著、共編訳）こうち書房、2000年

『満鉄労働史の研究』（共編著）日本経済評論社、2002年

『連続講義 東アジア 日本が問われていること』（共編）岩波書店、2007年

『裁判と歴史学——七三一細菌戦部隊を法廷からみる』（共編著）現代書館、2007年

『大量虐殺の社会史——戦慄の二〇世紀』（共編著）ミネルヴァ書房、2007年

目次

第1章 植民地労働史の分析視角

はじめに

- 1 戦前の帝国主義・植民地研究
- 2 戦前における日本の植民地労働問題研究——大河内一男と隅谷三喜男
- 3 戦後の帝国主義・植民地研究

おわりに——本書の視角と構成

第2章 日本への朝鮮人・中国人の労働移動と就業構造

はじめに

- 1 日本帝国主義の朝鮮植民地支配の確立と朝鮮人の日本労働市場への出現
- 2 全般的危機下の独占資本主義確立過程における朝鮮人労働者
 - 2.1 朝鮮人渡航政策史
 - 2.2 朝鮮人労働者の就業構造の確立
- 3 戦時国家独占資本主義下における朝鮮人・中国人労働者
 - 3.1 朝鮮人・中国人強制連行政策史
 - 3.2 朝鮮人・中国人労働者の就業構造の展開

おわりに

第3章 「満州国」における日本人・朝鮮人・中国人の移民・労働政策

- 1 満州国成立以降日中戦争勃発以前における移民・労働政策の形成過程
 - 1.1 対満日本人・朝鮮人移民政策の形成
 - 1.2 対満中国人移動制限政策の実施
- 2 日中戦争勃発以降における移民・労働政策の展開過程
 - 2.1 対満日本人・朝鮮人移民政策の展開
 - 2.2 戦時労働統制政策の展開と中国人導入政策の実施

第4章 満州の撫順炭鉱における労働実態

はじめに

- 1 撫順炭鉱略史
 - 1.1 炭鉱としての撫順炭鉱
 - 1.2 コンビナートとしての撫順炭鉱
 - 1.3 「満洲産業五カ年計画」下の撫順炭鉱
- 2 撫順炭鉱の労働力構成
 - 2.1 職位の階層的多様性
 - 2.2 労働力構成の展開
 - 2.3 労働統括方式——把头制

- 3 撫順炭鉱の労働者募集と強制連行
 - 3.1 「華北苦力」の募集
 - 3.2 「特殊工人」の導入
- 4 撫順炭鉱の労働過程
 - 4.1 採炭工程と労働時間
 - 4.2 賃 金
 - 4.3 労働環境・労働災害
 - 4.4 労働力移動
 - 4.5 「特殊工人」の逃亡

おわりに

第5章 満州における共産党と満鉄調査部事件

- 1 日本共産党満州地方事務局と満州労働組合協議会
 - 1.1 満州の労働組合運動と共産党創立
 - 1.2 満州事変勃発と反帝国主義戦争キャンペーン
 - 1.3 「渡政デー」キャンペーンと共産主義者一斉検挙
- 2 北満型農事合作社事件
 - 2.1 満鉄調査部事件の前哨戦
 - 2.2 農事合作社弾圧
 - 2.3 「満洲評論」に対する弾圧
- 3 満鉄調査部事件
 - 3.1 鈴木小兵衛の供述
 - 3.2 関東憲兵隊によるフレーム・アップ
 - 3.3 満鉄調査部弾圧
 - 3.4 関東憲兵隊の満鉄調査部像
 - 3.5 満州共産党員と「満鉄マルクス主義者」の不連続性

第6章 日本軍の七三一細菌戦部隊

- 1 七三一部隊の建設
- 2 七三一部隊の編成
- 3 七三一部隊における実験・研究
- 4 細菌戦の実施
- 5 戦後における七三一部隊の隠蔽
 - 5.1 部隊の破壊
 - 5.2 極東国際軍事裁判とアメリカによる調査
 - 5.3 解明されはじめた七三一部隊

あとがき
解説（杉原 達）

Takao MATSUMURA

A Labour History of Japan's Imperial Colonies

既刊図書 *内容案内送呈

不二出版

▼〒一三三〇〇三三▼東京都文京区向丘一―一―一
▼TEL 〇三三三八―二四四三三三▼FAX 〇三三八―二四四六四
▼振替 00160-2-94084

朝鮮徴兵準備読本

十五年戦争重要文献シリーズ⑩

金英達 編・解説

植民地朝鮮における日本帝国主義による朝鮮人の兵力動員は、志願兵制度と徴兵制度の二段階を経て実施された。本書は、徴兵制実施を前に、日本軍自らが朝鮮人に対して「日本の軍隊とは何ぞや」と説教した本の復刻版である。

▼B5判/上製/二〇〇頁/一九九三年五月刊

▼本体価格四、五〇〇円+税 ISBN4-8350-1058-2

特殊労務者の労務管理

十五年戦争重要文献シリーズ⑫

飛田雄一 編・解説

戦後、日経連の「閻将」として総評議長太田薫らと攻防をくりひろげた前田一の著書。朝鮮人・中国人の強制連行・強制労働のための企業側の「マニュアル」の復刻版。

▼B5判/上製/三〇〇頁/一九九三年五月刊

▼本体価格七、五〇〇円+税 ISBN4-8350-1059-0

国策会社・東拓の研究

河合和男・金早雪・羽鳥敬彦・松永達 共著

本書は、一九〇八年、朝鮮に設立された東拓(東洋拓殖株式会社)の多面的な事業活動を総体的に把握し、それを通じて、国策会社・東拓の全体像や歴史的意義に迫ろうとした共同研究書である。

▼A5判/上製/二六八頁/二〇〇〇年一月刊

▼本体価格七、八〇〇円+税 ISBN4-938303-97-3

七三一部隊作成資料

十五年戦争極秘資料集⑳

田中明・松村高夫 編・解説

生体実験を含む、七三一部隊の作成した文書は大部分焼却され、現存するものは極めて少ない。本書は、その残る文書を収集、原本のまま復刻。「第五回石井(四)部隊研究会記事」(昭和一五年四月二四日)ほか四点収録。

▼B5判/上製/三六二頁/一九九一年八月刊

▼本体価格一四、五〇〇円+税 ISBN4-8350-1029-9

七三一細菌戦部隊・中国新資料

小林英夫・児島俊郎 編・解説/林道生 訳

「悪魔の所業」といわれる人体実験を含む関東軍七三一及び一〇〇部隊に関する遼寧省档案馆所蔵の資料。写真及び原文を全面復刻し、翻訳文・解説を付す。原本資料名「侵華日本軍細菌戦部隊保存資料」。

▼B5判/上製/三六〇頁/一九九五年一〇月刊

▼本体価格一四、〇〇〇円+税 ISBN4-8350-2297-1

関東軍化学部・毒ガス戦教育演習関係資料

十五年戦争極秘資料集 補巻⑳

松村高夫・松野誠也 編・解説

中国東北部(満州)に駐留した関東軍化学部(満州第五一六部隊)や毒ガス戦部隊(独立瓦斯中队)と関係機関が一体となって推進した毒ガス戦の教育・演習の実態を示す新資料三〇点を収録し復刻。

▼A4判/上製/三六六頁/二〇〇六年一二月刊

▼本体価格二〇、〇〇〇円+税 ISBN4-8350-5656-6

FAX 03-3812-4464
43812
4464
又は最寄りの書店に左の注文表をお出し下さい

TEL 03 (3812) 4433
発行 不二出版
松村高夫 著
日本帝国主義下の植民地労働史
定価 5,800円 (税別)
日 060'9
ISBN978-4-8350-5756-9 C3030 ¥5800E

注文表	書店名・取次名
冊	注文数
冊	ご担当